

第10回宮津まちづくり会議

日時：平成27年11月19日（木）18：30～20：30

場所：宮津商工会議所 大会議室

1 内容

1) 「浜町エリア及びその周辺エリアの活性化に向けて」報告書（案）について

【主な意見】

- ・地域振興拠点については、駐車場面積や店舗面積をしっかりと考え、安定な経営ができる規模を目指すべき。
- ・今後の宮津まちづくり会議の役割について、役割の補完ではなく、研究していくという前向きな表現してみてはどうか？
- ・当会の議論が始まってから、この間、事業者・市民の中でも様々な力が発揮してきているように思う。（新規店舗の出店やイベントなど）
- ・当初の宮津まちづくり会議の設立趣意から少し変わっても良いのではないか？
- ・今回で終了ではなく、常に議論、アクションをし続けていく表現が良い。発展形で進めていくことが良いのではないか。

⇒修正点等については、会長と事務局と整理の上、11/24までにセットすることで了承

2) その他：報告書後の動きについて

- ・基本的に、地域振興拠点の具体化（商品開発、担い手づくり、会社づくりの研究等）は、会議所が引き続き実施。
- ・市は、①公共用地（再開発用地、公園）における実現可能性の整理、②公共施設（公園、図書館等）の充実、改善等に向けた方針の整理を行う。
- ・経営マネージャーについては、タイミングを見て会議所が再募集したい意向。
- ・市街地の賑わいづくりについては、今後、商店街等に入り、事業化に向けて検討を始めていきたい。

2 顧問から

(井上市長)

- ・宮津まちづくり会議の委員の皆様には、お忙しい中、今まで熱心な議論を尽くしていただき、また、実証実験にも取り組んでいただき、今回報告書をまとめていただき感謝している。
- ・浜町では、今年7月に観光交流センターがオープンするとともに、今月5日には道の駅にも登録された。
- ・また京都縦貫道の全線開通で、人の流れが変わってきていると感じている中、宮津満腹祭や、天橋立へ観光船で誘導する「パーク&クルーズ」に、多くの来客をいただいております、賑わいづくりに向けた「芽」が出てきたと感じている。
- ・これを追い風として、「海の京都観光圏の玄関口」として、また、「市街地の賑わいづくり拠点」として、更に取組みを進めていくことが必要と感じている。
- ・今回、宮津まちづくり会議でまとめられた報告書には、浜町や既存市街地など、今後の賑わいづくりに向けたアイデアやエキスが散りばめられていると感じている。
- ・今後、市としても、この報告書をしっかり受け止め、何をどこまで行うか真剣に検討した上で、賑わいづくりに繋げていきたいと考えている。
- ・また、地域振興拠点については、立地場所など市で整理すべきことは早急に整理し、できるだけ早期に実現できるようにしていかなければならないと考えている。
- ・今後のまちづくりに向けて、トータルコンセプトを打ち出す時期に来ていると感じている。そのためにも、プロデュースする組織が必要と感じている。
- ・そうしたことから、皆さんと一緒に、今後とも取組みを進めていきたいので、引き続き御協力をお願いしたい。

(今井会頭)

- ・原点を考えた時に、当会議を設立した目的は何だったのかを振り返ると、周辺地域50万人が訪れたいようなまちを目指すべきとのことだった。
- ・今後もその方針にぶれることなく、報告書を基に進めていきたい。
- ・この地域で商いをしてみたい、起業家が集まるまちにしていくべき。
- ・先日のグルメ合戦では、宮津の商品が少なく、少し残念に思う。やはり商品開発もセットで考えていきたい。
- ・商売人は議論ではなく行動、結果がすべてなので、今後も様々な仕掛けを試していった進んでほしいと思う。
- ・我々は、現在、観光圏の5年間を与えられているが、時間はあるようでない。終了しても延長“できるから大丈夫”と思わないようにしてほしい。

以上